

令和元年度 第2回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	令和元年10月16日(水) 13:30~14:50 政策審議室		
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「えびな元気にぎわい振興計画」の進行管理について</li> <li>・令和元年度 にぎわい振興事業について</li> <li>・令和2年度 にぎわい振興事業について</li> </ul>		
出席委員	羽田会長、三田副会長、佐藤委員、尾崎委員、塩脇委員、門脇委員、長委員、伊藤委員、三部委員、半澤委員 計10名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
事務局・説明者等	経済環境部長 谷澤 商工課長 安宅、 にぎわい振興係 係長 佐藤、主事 花上		

案 件

1 「えびな元気にぎわい振興計画」の進行管理について

委 員：収集物件は具体的にいうと商工課が参加するイベントでアンケートを実施するようだが、どんな内容にするのか。

事務局：ひとつ前の事業に情報の収集がある。その中でメディアなどに上げられているところを皆様にお示しして、「海老名の1番」というところにシールを張っていただくようなアンケートをしてみると、皆様が興味のある物件というのが出てくるのではと思っている。

委 員：海老名市はイベントがたくさんある。おでんナイトニッポンは昨年もたくさん人がきていたし、来場者の意見を取れる、ニーズに応えるようなアンケートを実施する予定はあるか。

事務局：おでんナイトニッポンはお酒を飲める場なので、記述式ではなく、誰でも簡単にできるシール式のアンケートを検討している。他のイベントであれば名店・名産品の投票も記述式で実施したことがあるので可能。

委 員：西口中心広場を活用して何かできないか。19日にバスのイベントではテレビの取材も入れるような話もあったと聞いている。西口中心広場が海老名のイベント会場みたいになればいいのかなと思う。

事務局：東口は中央公園、西口は中心広場をイベント会場として、市としても活用している。

委 員：アンケートされるときに紙ベースだと大変だと思うので、質問は簡単なほうがいい。市外にお住まいの方がどう思っているか、市内外が後で分かるようにされた方がいい。それとオンリーワン、ナンバーワンにはあまり引っ張られないように。逸品もあるので、ここでは場所やイベントなどに限って海老名で1番

好きなところを聞くようにする。今の時代であればインスタ映えするところなど聞くと良いのでは。

委員：都市集客イベントが「研究」になっているが、おでんナイトニッポンは計画が出来てからの新しい注目されるイベントである。ここに入れることは出来ないのか。

事務局：都市集客イベントの事業概要として、1か所ではなく、様々な場所で同時に行うイベントを研究と書いてあるので、当てはまらないのではと思った。ただ、おでんナイトニッポンは日本酒、音楽、おでん、体験などを小グループとし、様々な楽しみ方を目的とするという点では一致していると思う。

## 2 令和元年度 にぎわい振興事業について

委員了承

## 3 令和2年度 にぎわい振興事業（案）について

◆次期「えびな元気にぎわい振興計画」について

◆「えびな元気ナビ」の改修について

◆市内を回遊するシェアサイクルの実証実験について

◆多言語対応（自動翻訳ツール）の導入について

委員：審議会4回はいつごろを予定するか。

事務局：5月・7月・10月・1月を考えている。

委員：そうすると5月は第1次の計画を受けて新たな計画策定にあたり、重視すべきところや課題や方向性をざっくりばらんに議論していただく会になると思う。

委員：インバウンドとあるが、海老名にはどのくらい需要があるのか。県内ではどのくらいの位置で、将来はどうかたちで伸ばしていくのか。そういったところを知っていたら教えていただきたい。

事務局：海老名への観光なのかビジネスなのか。実際のところ数については市で把握できていない状況。県で情報は持っていると思うので活用しながら考えていきたい。

委員：国では来年4,000万人を示している。2030年には6,000万人。世界的にも日本は昨年の実績で11位。その中心として主は東アジアASEANだが、伝染病などが起こらなければ確実にインバウンドは増えていく。海老名でどういう外国人がという質問であるが、在日は首都圏で100万人いる。海老名のインバウンドは在日のマーケットも考えられる。リコーや色々な製造業とかあるので、そういうところに会社関係の見学や研修、会議などの業務系のニーズもあるはず。訪日外国人ということではなく外国人の消費需要という括りの中できめ細かく考えていかないといけない。次期計画でも重要な課題になってくると思う。

委員：海老名の西口のマンションの入居が始まっているようで、これからの建設計画もあるようだが、全て居住することになった場合、西口のマンション群一帯でど

のくらい人口が増えるのか。

事務局：当初は 3,000 人の予定であったが、ピアメカニクスが撤退して空いている土地にマンションが建つと超えてしまう。

委員：その方たちが市外からくるのか市内から来るのかそれによるが、インバウンドの影響もあると思うが、新たに海老名に来られる方の行動パターン、海老名に対する思い、郷土愛、こういうものが海老名のにぎわいに大きな影響を及ぼすのではないのかと思う。

委員：計画を作るときは「計画条件」という言葉を使う。計画の前提とすべき。

委員：2021 年に市制施行 50 周年ということだが、何かイベントなど考えているか。

委員：市としても 50 周年に向けてプロジェクトチームを作って事業を検討するなど動き始めている。にぎわいを創出できるイベントで何か考えていかなければと思い、入れさせていただいた。

委員：RWC のとき、ロシア代表の方と会えるのかなと思っていたが、なかなか会えず・・・海老名駅周辺で買い物や食事などしていただけたらにぎわうのではないかと思ったが。

委員：埼玉県熊谷市が交流している様子がテレビで流れていた。

委員：シェアサイクルについて近隣地域との連携で座間・綾瀬はできないのか。

事務局：対象外である。今のところは寒川町と大和市。横浜でも瀬谷のポートくらいまでは行けると思っている。

委員：予算がかからないとのことだが、財源はどのようにしているのか。

事務局：事業者の方で自転車を所有しているので費用がかかるところはないと伺っている。

委員：場所が長くても金額は変わらないのか。また自転車は全部同じ型か。

事務局：借りている時間で料金が決まるので距離は関係ない。電動自転車を使用。

委員：公募は運営委託か。

事務局：そうです。

委員：同じような業者が複数あるということか。

事務局：複数あるが、費用がかからないところに委託したいと考えている。

委員：茅ヶ崎・寒川のバス停に自転車が置いてある。神奈中もやっているのと同じか。

事務局：それは神奈中が独自でやっているものかと思われる。

委員：設置後の運営管理に関わる問題は、これまで実験的にやっているところから出てないのか。

事務局：自転車がポートから溢れてしまう状態が発生することもあるが、事業者で回収して空きポートに移動していると伺っている。

委員：市内の企業と連携して定期的に自転車を回収している。また故障車のメンテナンスも実施している。自転車メーカーを揃えていたらサービスセンター対応などそこはしっかりしていると思う。ただ放置具合が心配。

- 委員：大型店のビジネスに多少は繋がる可能性はないか。
- 委員：どうでしょうか。スペースはどのくらい必要なのか。
- 事務局：コンビニにも設置できるくらいのスペースなので、5台くらいから設置可能と聞いている。駅であると多めに止めるスペースが必要だが、敷地に合わせて置けるようだ。
- 委員：場所の賃料は発生しないのか。
- 事務局：提携している場所であれば、賃料等は発生しないと伺っている。また、今回は事業案で、確定したわけではない。皆様のご意見いただきながら今後どうしていくか検討して参りたい。
- 委員：6～7年前に市に提案したことがある。行政でやってほしいことはサイクリングロードの整備。走るところを見直していかないとと思うので、視野に入れて進めていただければと思う。
- 委員：パンフレットについて、前の会議でも紙媒体のものが多すぎてわからない、手に取ってもらえないなどの意見もあった。アプリの改修にも力を入れたほうが良いのではないか。
- 事務局：市では色々な部署で発行するパンフレットがあるので、そういったものをギュッとデータで見られるのはいいと思っている。
- 委員：若い方はスマホを見て買い物に来たという方も結構いたりするので、アプリに予算をつけるのはいいと思う。
- 委員：先日、県が神奈川の観光のパンフレットを改訂するという事で、事業者のプレゼンがあり、少し関わってきたのだが、観光関係のパンフレットは紙媒体が大量にあり、一方で電子版もかなり充実したものとなってきている。バランスがとても難しい。紙はイベントで配布したり、旅行会社にPRなどの際、見せたほうが早い。しかし、紙は詳細を伝えるのに限界があるし一度印刷してしまったら情報を変えるときにどうしようもなくなってしまふ。したがって紙は、その気にさせる、引き付けるときに使うものという話になった。コストパフォーマンスの問題もあるので、ほとんどの自治体の観光関係の担当でその問題は悩んでいるところ。
- 委員：意見を聞いて思ったのは、地方に行ったとき、ここにはこんなものがあるよというのがわかる特定したコマーシャルの紙をその場で見る方がいい。ウェブは下調べではいいと思うが、情報が多すぎて現地ではそぐわない。
- 委員：観光でいうとデジタル系は日々進化していて、マーケットが変わっている今の実情をいうと観光客に見せるのはアプリではなくなっている。市で持っている元気ナビは地元の方や勤務している人、かなり海老名に濃い方がアプリを落として情報を得ているのが普通だと思う。また、アプリ制作会社や通信企業は観光客にアプリを落とすハードルを削るという仕事をしている。自分達が旅行に行ったときに置き換えていただければわかると思うが、海外旅行に行ったときに現地のア

プリをダウンロードすることはない。特にインバウンドでアプリを作って翻訳しても全く意味がない。パンフレットからQRコードで飛ぶくらいなら良いと思う。検索の情報はプラットフォームから入るかたちが多いので、若い人たちならSNSから拾っていくとか。LINEのお友達登録なども。ふるさと納税もポータルサイトから入って探している。「カスタマージャーニー」とよく言うが、検索でどういう風に入ってくるかである。

委員：プラットフォームには市のホームページはなり得るのか。

委員：基本的には難しい。ただ住民の方は市のホームページは見る。

委員：海老名にきた人が「海老名市」と調べたときに案内版というか・・・

委員：調べ方にもよるが「海老名市 観光」で検索すると観光協会や観光系のサイトが出てくる。

委員：翻訳ツールでページ作成のときに簡単な内容にするというのは相当大変な作業になるのではないか。また、翻訳されている情報は、見ている外国人にとってどれだけ有力なものか。簡単なものであれば見ないのでは？えびな7めぐりはおそらく「旅中」に使われるものだと思うので、来ているのに簡単な内容にしてしまったら役に立たないのでは、私は要検討かなと思う。

事務局：簡単な内容に変えるのではなく、日本語は複雑な言語なのでやさしい日本語にして英語の翻訳をしやすくするという意味である。

委員：情報って「旅前」「旅中」のどの段階でどういう情報が必要とされるのかということを考えてやらないと上手く当てはまらないと思う。

以上